

平成 24 年 8 月号

今月の断酒表彰

- S・K さん 南千里支部 断酒三カ月
- I・S さん 吹田支部 断酒六カ月
- M・H さん 吹田支部 断酒八年
- H・S さん 吹田支部 断酒三十年

断酒表彰おめでとうございます。ますますのご活躍を期待いたします。



平成 24 年 8 月 1 日発行 114
 編集・発行 事務局・広報部
<http://suitashi-danshukai.com>

7月7日(土)臨時総会が開催されました。
 議題は、辻本会長東北へ転勤にともない新会長の選出です。前会長の土肥さんをお願いしたところ快く引き受けて頂き、会員の承認で、可決されました。
 宜しくお願い致します。

新会長挨拶

会長再任にあたって

この度、辻本会長が突然の転勤ということになり、後を引き継がせていただくことになりました。

以前会長をさせていただいたのが平成十六年十月でした、以降平成二十二年4月まで約7年間会長をさせていただき、私としては前回役員改選時に辻本会長にうまく引継ぎが出来たと安堵しておりました。

「重い荷物は、分けあつて持ちましよう」断酒が安定してくれば私は「会のために、何かできる事はないか」そう思いながら断酒継続をさせていただきますいております。

本音を言えば新しい方に後任していただく方が良いと思いましたが、任期中の突然の事情もあり再任させていただくこととなりました。

私自身も存分に活動できる環境は整っておりますが、精一杯働かせていただきたいと思いますので、会員、家族の皆さんのご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

2012年7月7日 南千里支部 土肥 茂



断酒に思う(31)

今月は、本年度酒害相談講習会修了のみなさまから心に残った一言や感じたことです。

第40回酒害相談講習会に参加して
 南千里支部 Y・T

平成24年4月6日～6月15日(10回開催)の第40回酒害相談講習会にアルコール専門病院の各先生や行政関係の方々を講師として開かれました、講習会受講修了者(修了証配布者)は40回修了時点で2717名で内訳は断酒会関係が2166名、医療・学生・一般551名となりました。私は2回目の参加となりましたが前回より1歩踏み込んで拝聴出来たと思いましたが、改めてアルコールの怖さ・酒害の根深さ・アルコールの身体に及ぼす悪影響等々改めて再認識しました。
 講話の中で

1. アルコール依存者の低年齢化の問題

アルコール売り上げ不振を、色を付け、香りを付け、誤認識する様なコマーシャル(タバコ、コマーシャル廃止逆行)による販売攻勢によると思われる。

2. アルコール依存者の高齢化の問題

入院患者の1/3が65歳以上という現状、定年60歳後に数年で依存症者へ進む団塊の世代の影響と思われる。

前記1.2項による依存症者増加が見られるが断酒会員の減少は退院後はクリニックや病院の酒害教室止まりで入会しない人が増えているが、やはり入会し例会出席が一番大事である、三位一体の大阪特有の形を推進し又、断酒会のPRも今以上に必要と話されていました。酒害相談講習会を修了したとしても、相談を持ちかけられた時に対応出来る知識が付いたか定かではないが、「0」から「1」から「2」と少しでも知識を増やして行きたい、勿論自己啓発と断酒継続のためにも色々な研修会等に今後とも参加して行きたい。



【今月の「指針と規範」】

四 お互いの人格の触れ合い、心の結びつきが断酒を可能にすることを認め、仲間たちとの信頼を深める

一人では酒をやめられないことを認めて断酒会に入会した。例会に出席して、過去の酒害体験を赤裸々に話した。現在持っている悩みも卒直に語った。これからの人間としての在り方についても話した。しかし、断酒生活を永續させるためには、それだけでは充分ではない。

同じ悩みを持つ者同士がそれぞれの心を通わせ合い、お互いの人格が触れ合わなければ、いくら大勢の酒害者が集まって体験を語り合ったとしても、その中から収穫するものは少なく断酒そのものまで行き詰ってしまう可能性がある。

元々断酒会は、酒害者同士の信頼関係があって初めて成立した組織である。そうした人間関係にすべての会員が無関心になれば、断酒会は一気に崩壊してしまうだろう。われわれ酒害者同士に一体感が欠けたとき、断酒も、断酒会も消失することを忘れてはなるまい。

昭和三十三年秋、完全自立を目指す断酒自助集団が高知で発足したときは、会員はわずか二名であった。ひとりで一年半酒を断っていた元政治家と、まだ酒が切れていない二十八歳の青年であった。

青年は何も考えず、元政治家をひたすら信じてついていった。元政治家は、どんなに努力しても失敗してしまう青年を、誠意と根気と信頼感でやっと断酒に成功させ、自らは酒害相談のノウハウを学ぶことができた。

やがて元国鉄助役が入会し、「やっとたどり着いた。やっと自分のいる場所を見つけた」と、感動で声を震わせた。次いで、ひとりで五年も酒を断っていた老人が入会し、「酒を飲まない仲間かできて本当によかった」と、ほっとしたように笑った。

彼ら四人は、お互いが酒害者であるということだけで、それぞれを何の迷いもなく受け入れた。すぐに一体感が生れ、全国組織づくりの基礎をつくった。酒害者同士の信頼関係があって初めて成立した組織である、と敢ていう理由がこれである。

(「指針と規範」 23～24ページ)

